



対談 院長 池上明雄 × インタビュアー「俳優」秋野太作

秋野 東広島市のいけがみ小児歯科さんは九月一日にオープンしたばかりだそうですね(対談日:平成二十二年九月十日)。建物の美しさはもちろん、待合室には本屋さんやおもちゃ屋さんなどが整備され、まるでひとつの町が形成されているかのような造りに驚きました。こんな歯医者さんならお子

さんも楽しみに通うでしょう(笑)。池上 ありがとうございます。秋野さんがおっしゃるように、待合室は「リトルナッツタウン」という架空の小さな町で、本屋さんやおもちゃ屋さんのお子さんが大好きな公園も造りました。また、トイレにはお子さん専用の便器を備えた他、赤ちゃん連れ

のお母さんにも利用して頂きやすいようにベビーベッドやおむつ交換台も設置しました。そして当然ながら診察ユニットは安全性の高いものに、そしてできる限りお子さんの恐怖心を取り除こうと笑気麻酔を導入しています。ちなみに私もスタッフも院内では「注射」という言葉を口にはせず、「しび

いけがみ小児歯科

広島県東広島市西条町寺家6537-11

しきゅー◎ ごよやく
TEL.082-490-5489

FAX.082-490-3603

<http://club-nuts.kids.coocan.jp/>



幼児期からの徹底したムシ歯予防を提唱 歯の健康は自分で守る意識を育てたい!

れ薬」という呼び方で統一しており、それは付き添いで来られた方にも言ってもらおうようお願いしています。

秋野 お子さんの心理をうまく引き出すよう、ハード・ソフト両面からいくつもの仕掛けが施された小児歯科なのです。

池上 どのお子さんにも安心して通ってほしいという思いがあり、「歯医者さんで治療することは決して怖くない」「歯の健康を守るのは大切で、それができるのは自分自身に他ならない」といったことをきちんと理解した上で育ってほしいと心から願っていることです。そのためできる限りのことを実践したいと考えており、歯科に対してマイナスイメージを持つお子さんを一人でも少なくするため、スタッフと一緒に最大限の力を尽くすべく頑張るつもりです。

秋野 こんな楽しい「リトルナッツタウン」に来れば、子ども達はきっとワクワクすることでしょう(笑)。

池上 歯の健康を維持するにはお口の中を清潔——「平和」にしなければなりません。そのためにはまず「知識」と「作戦」、次に「予防」。そして「治療」が必要だとお子さんにも分かりやすく説明しています。そしてこれらを日常的に実行することがいかに大切かをメッセージとして伝えられるよう、私は「知識」と「作戦」を《ハリー》、「予防」を《ナッツ》、「治療」を《アッキー》というキャラクターにシンボル化しました。

秋野 「リトルナッツタウン」の《ハリー》《ナッツ》《アッキー》が協力し合って、口の中の「平和」を守るわけです。

池上 その通りです。三つのシンボルの中で特に重要なのが「予防」の《ナッツ》で、これは自発的に行なわなければなりません。つまり《ナッツ》はお子さん自身ですから、男の子も女の子も違和感なく入り込めるよう中性的なキャラクターにしました。

秋野 「リトルナッツタウン」の意味がよく理解できました(笑)。そう言えば、医院の屋根にもオブジェのように据え付けられているキャラクターが見えましたが。

池上 未来の《ナッツ》ですね。よく見るとプレゼントを手をしているのがお分かり頂けると思うのですが、あのプレゼントは当院に通ったお子さん達が、将来いんなものを与えられる人間に育ってほしいという私どもの願いの象徴でもあります。幼いながらも健康な歯は自分で守ることの大切さを体得し、その意識をしっかり持ち続けていく成長してもらいたいなど。

歯の幸せはムシ歯予防から!

秋野 子ども達の歯の健康に対する池上院長の熱意はお話からも充分に伝わっています。では、歯科全般ではなく小児歯科に限定した背景についてお聞かせ下さい。

池上 高校時代、漠然とはありましたが「何か技術を身に付けて独立したい」との気



持ちがあり、歯科医師なら可能性があるのではないかと広島大学歯学部に入學しました。在学中は家庭教師などいろいろなアルバイトを経験しましたが、中でも印象に残っているのが各地で開催されるイベントで子ども達とふれあう着ぐるみの仕事でした。着ぐるみを見ると子ども達は必ず目をキラキラ輝かせて集まってくる。その純粋さに何度も接するうちに「子どもって素晴らしい」と感じるようになり、どうせなら子ども達のために自分の技術を生かしたいと考えるようになったわけです。それで広島大学歯学部を卒業後、同大学小児歯科で四年間の勤務医を経て因島医師会病院小児歯科に異動しました。ちなみに因島医師会病院は小児歯科のみを標榜していたため私にはまさに打ってつけで、様々な経験を積ませて頂くなど技術の向上を図ることができました。



池上 ご指摘のように小児歯科は患者さんの層が限られますが、小児歯科という専門性をアピールして成功されている歯科医師は大勢いらっしゃいますし、また、どの先生も「幼児期から歯の健康に対する関心を育てよう」と多大な努力をされています。そんな中で私も純粋な目を持った子ども達のために活動できればと思った次第です。ちなみに小児歯科の具体的な目標は、五歳と十二歳で治療済みも含め全くムシ歯のない状態を指す「カリエスフリー」の割合を九十

パーセントにすること、でもその目標達成を目指したいと取り組んでいます。

秋野 お話が前後して恐縮ですが、院長は広島県のご出身ですか。

池上 いえ、生まれ育ったのは長野県茅野市です。広島へ移った理由と

テムを導入しています。ただし子ども達を対象ですので、滞りなく診察を進めるためにはスタッフ、そして付き添いの親御さん達の協力が欠かせません。現在のところ診療方針や治療内容などを事前にホームページで公開したこともあって、スタッフも患者さんサイドもそれらをよく理解して全面的に協力してくれています。

秋野 スタッフを採用するに当たっては、院長自らが面接されたのですか。

池上 ええ、私自身スタッフとは「地域ナンバーワン」と言われるくらい良好な関係を築きたいの思いがあり、採用条件もかなり厳しいものになったと思います。医療に携わる際の心構えだけでなく、来院される方々に接する態度、更には本人の信条や健康状態、喫煙の有無、髪の色に及ぶまで六十四項目の質問を自ら考え、また、面接もお互い納得するまで一人一人に時間を掛けて行ない、それらにしっかりと対応してくれた人の中から採用を決定しました。結果的に受付も歯科助手も約八倍の競争率でしたが、仕事への意識が高い人を採用することができて私も非常に満足しています。

池上 私は各種セミナーや勉強会など積極的に出掛けるのですが、偶然この一年間に複数の方から同じ言葉を教えて頂きました。それは「過去と他人は変えられない」という非常にシンプルな言葉ですが、その意味を深く考えれば考えるほど「なるほど」と共感できるものがあり、このひと言を知ってから物事の感じ方や捉え方が大きく変わったように思います。

秋野 確かに面白い深い言葉ですね。ただし捉え方によってはネガティブな響きがなきにしもあらずですが(笑)。その奥を見据えて座右の銘にするところに院長の思慮深さが見取れます。

池上 他人の話に耳を傾けることは大切だと思います。先日も講演会である講師の先生が「三方よし」の話をされました。秋野さんはご存じかと思いますが、これは近江商人の考え方で「買い手、売り手、それに世間の三者が満足してこそ真の商売と言える」という意味なのだそうなんです。

秋野 つまり「目先の利益ばかりに目を向ける発想では、商売においても大成しない」ということですね。

池上 買い手を第一に考えるのは社会貢献にも繋がりますが、私はこれを医院の経営に当てはめてみました。患者さんと歯科医師だけが満足するのではなく、周囲にいるスタッフや医療業務に携わってくれる関連業者さんにも満足感が及ばないと、歯科を通しての社会貢献などできないのではないかと、このように近江商人の精神に触れて「三方よし」を参考にしながら、私も本院の理念をつくり上げました。

秋野 医療もサービス業と言われる時代だけに、商売の発想を導入することもひとつの方策だと思えます。では、院長がお考えになった理念を教えてください。

池上 「いけがみ小児歯科は小児歯科医療を通じて、スタッフ・地域の方々双方の夢の実現を支援し、自ら与える喜びを感じます。相手の、そして自分の心の鐘を鳴らします」というものです。歯科医院らしい理念でないことは承知していますが(笑)、これに基本に誰もが幸せになれる歯科医療を目指したいと考えています。

秋野 私が小さかった頃は親も食べるのに精

あう着ぐるみの仕事でした。着ぐるみを見ると子ども達は必ず目をキラキラ輝かせて集まってくる。その純粋さに何度も接するうちに「子どもって素晴らしい」と感じるようになり、どうせなら子ども達のために自分の技術を生かしたいと考えるようになったわけです。それで広島大学歯学部を卒業後、同大学小児歯科で四年間の勤務医を経て因島医師会病院小児歯科に異動しました。ちなみに因島医師会病院は小児歯科のみを標榜していたため私にはまさに打ってつけで、様々な経験を積ませて頂くなど技術の向上を図ることができました。

秋野 そして開業を決定されたのですね。ところで、小児歯科は一般歯科に併設されている場合が多いですが、敢えて特化する形で開業されたのは、院長が本当にお子さんが好きだからでしょうか。

池上 ご指摘のように小児歯科は患者さんの層が限られますが、小児歯科という専門性をアピールして成功されている歯科医師は大勢いらっしゃいますし、また、どの先生も「幼児期から歯の健康に対する関心を育てよう」と多大な努力をされています。そんな中で私も純粋な目を持った子ども達のために活動できればと思った次第です。ちなみに小児歯科の具体的な目標は、五歳と十二歳で治療済みも含め全くムシ歯のない状態を指す「カリエスフリー」の割合を九十

パーセントにすること、でもその目標達成を目指したいと取り組んでいます。

秋野 お話が前後して恐縮ですが、院長は広島県のご出身ですか。

池上 いえ、生まれ育ったのは長野県茅野市です。広島へ移った理由と

テムを導入しています。ただし子ども達を対象ですので、滞りなく診察を進めるためにはスタッフ、そして付き添いの親御さん達の協力が欠かせません。現在のところ診療方針や治療内容などを事前にホームページで公開したこともあって、スタッフも患者さんサイドもそれらをよく理解して全面的に協力してくれています。

秋野 スタッフを採用するに当たっては、院長自らが面接されたのですか。

池上 ええ、私自身スタッフとは「地域ナンバーワン」と言われるくらい良好な関係を築きたいの思いがあり、採用条件もかなり厳しいものになったと思います。医療に携わる際の心構えだけでなく、来院される方々に接する態度、更には本人の信条や健康状態、喫煙の有無、髪の色に及ぶまで六十四項目の質問を自ら考え、また、面接もお互い納得するまで一人一人に時間を掛けて行ない、それらにしっかりと対応してくれた人の中から採用を決定しました。結果的に受付も歯科助手も約八倍の競争率でしたが、仕事への意識が高い人を採用することができて私も非常に満足しています。

秋野 院長以外はすべて女性ですか。

池上 はい。十名すべて女性スタッフです。毎朝必ず三十分ほどミーティングを行なうのですが、お子さんへの気配りや連絡事項の伝え方など様々な面であるんなアイデアを出してくれまして、いつも時間が足りない状態なのです(笑)。それぞれが自立したポリシーを持ち、私を理解した上でサポートしてくれるスタッフには本当に感謝していますし、これからも力を合わせて頑張っていきたいと思っています。

「三方よし」の発想を歯科にも導入

秋野 開業後は診察だけでなく医院の経営面も考えなければならず、勤務医とは違う

忙しいを感じておられることと思います。日々のストレスはどのように発散されているのか、また、リフレッシュ法などがあればぜひ教えて頂きたいと思っています。

池上 趣味は釣りやドライブで、学生時代から暇を見つけては各地へ釣りに出掛けたり、車を運転しながら景色を楽しんだりしています。医院が軌道に乗って時間に余裕ができた頃には、釣竿を片手にメキシコやオーストラリアに出掛けて日がな一日釣りに没頭したいと思っています(笑)。自分而言うのもおこがましいのですが、周囲から「もっと怒った方がいい」とアドバイスされるほど穏やかな性格で、それだけにストレスは溜まりにくいのかも知れません。

秋野 子ども達の純粋さに惹かれる院長ですから、そういう性格なのも納得です(笑)。では、座右の銘についても伺っておきたいと思うのですが。

池上 私は各種セミナーや勉強会など積極的に出掛けるのですが、偶然この一年間に複数の方から同じ言葉を教えて頂きました。それは「過去と他人は変えられない」という非常にシンプルな言葉ですが、その意味を深く考えれば考えるほど「なるほど」と共感できるものがあり、このひと言を知ってから物事の感じ方や捉え方が大きく変わったように思います。

秋野 確かに面白い深い言葉ですね。ただし捉え方によってはネガティブな響きがなきにしもあらずですが(笑)。その奥を見据えて座右の銘にするところに院長の思慮深さが見取れます。

池上 他人の話に耳を傾けることは大切だと思います。先日も講演会である講師の先生が「三方よし」の話をされました。秋野さんはご存じかと思いますが、これは近江商人の考え方で「買い手、売り手、それに世間の三者が満足してこそ真の商売と言える」という意味なのだそうなんです。

秋野 つまり「目先の利益ばかりに目を向ける発想では、商売においても大成しない」ということですね。

池上 買い手を第一に考えるのは社会貢献にも繋がりますが、私はこれを医院の経営に当てはめてみました。患者さんと歯科医師だけが満足するのではなく、周囲にいるスタッフや医療業務に携わってくれる関連業者さんにも満足感が及ばないと、歯科を通しての社会貢献などできないのではないかと、このように近江商人の精神に触れて「三方よし」を参考にしながら、私も本院の理念をつくり上げました。

秋野 医療もサービス業と言われる時代だけに、商売の発想を導入することもひとつの方策だと思えます。では、院長がお考えになった理念を教えてください。

池上 「いけがみ小児歯科は小児歯科医療を通じて、スタッフ・地域の方々双方の夢の実現を支援し、自ら与える喜びを感じます。相手の、そして自分の心の鐘を鳴らします」というものです。歯科医院らしい理念でないことは承知していますが(笑)、これに基本に誰もが幸せになれる歯科医療を目指したいと考えています。

秋野 私が小さかった頃は親も食べるのに精



忙しいを感じておられることと思います。日々のストレスはどのように発散されているのか、また、リフレッシュ法などがあればぜひ教えて頂きたいと思っています。

池上 趣味は釣りやドライブで、学生時代から暇を見つけては各地へ釣りに出掛けたり、車を運転しながら景色を楽しんだりしています。医院が軌道に乗って時間に余裕ができた頃には、釣竿を片手にメキシコやオーストラリアに出掛けて日がな一日釣りに没頭したいと思っています(笑)。自分而言うのもおこがましいのですが、周囲から「もっと怒った方がいい」とアドバイスされるほど穏やかな性格で、それだけにストレスは溜まりにくいのかも知れません。

秋野 子ども達の純粋さに惹かれる院長ですから、そういう性格なのも納得です(笑)。では、座右の銘についても伺っておきたいと思うのですが。

池上 私は各種セミナーや勉強会など積極的に出掛けるのですが、偶然この一年間に複数の方から同じ言葉を教えて頂きました。それは「過去と他人は変えられない」という非常にシンプルな言葉ですが、その意味を深く考えれば考えるほど「なるほど」と共感できるものがあり、このひと言を知ってから物事の感じ方や捉え方が大きく変わったように思います。

秋野 確かに面白い深い言葉ですね。ただし捉え方によってはネガティブな響きがなきにしもあらずですが(笑)。その奥を見据えて座右の銘にするところに院長の思慮深さが見取れます。



屈託のない笑顔や純粋な心に惹かれて小児歯科医師の道を志した池上明雄院長は、「3歳までにムシ歯予防を徹底し、適切な日々のケアをしっかりと行なうことで、生涯にわたって自分の歯を維持する確率は飛躍的に高まる」と乳幼児期からの予防の大切さを切に唱える。個性あふれる子ども達の心理に寄り添いながら、歯の健康に対する意識をどう芽生えさせるか——待合室に設けた架空の町「リトルナッツタウン」や「歯っぴー わくわくドレミ教室」など、いけがみ小児歯科が提唱する画期的な取り組みを追った。

INTERVIEW AKIO IKEGAMI × TAISAKU AKINO

一杯で、少しくらいのムシ歯は我慢させられた記憶があります(笑)。しかし時代が進んで衣食住が足りてくると、日本人も欧米並みに歯の健康を考えるようになり、見ただけで育った環境などある程度は察しがつくでしょう。

池上 そうですね。そもそもムシ歯はムシ歯菌による感染症の一種で、歯は三歳までに九割のお子さんの口腔内に住みついてしまいます。つまり防ぐにはムシ歯菌が定着しにくい口の中の環境を整え、歯の抵抗力も強くしておかなければならず、だからこそ三歳になる前にムシ歯予防の対策を完璧にする必要があるわけです。このことを親御さんにも徹底的に理解して頂き、そのご両親の下で育ったお子さんが自然とムシ歯予防への意識を高められるよう、丁寧かつ親切に指導及び診療を実践してまいりたいと思っています。

秋野 いけがみ小児歯科さんのように楽しくてワクワクする歯医者さんが各地にできれば、子ども達の歯科に対するイメージはかなり良くなるでしょうね。

池上 そうなれば嬉しい限りです。お子さんのワクワク感をサポートする意味から、「リトルナッツタウン」では平日の午前九時から十二時半まで三十分間隔で「歯っぴー わくわくドレミ教室」を開いています。教室では簡単な楽器演奏や紙芝居、絵本の読み聞かせ、エプロンシアターなど様々なイベントを行っており、音楽や絵本の力を借りながら集団の中で歯の仕上げみがきの練習をするのですよ。三カ月で二、五〇〇円の



会費を頂戴しますが、会費内でお子さんの唾液の質やムシ歯菌の有無を調べる検査の他、個々に応じたムシ歯予防プログラムを作成させて頂きます。

秋野 楽しく参加しながら予防できるのはありがたい教室ですね。

池上 日本におけるムシ歯予防は三歳を過ぎてからとの考えが一般的ですが、それでは手後れです。先程も言いましたように、三歳までにムシ歯菌の有無や状態を確かめて必要に応じた予防処置を行なうことが大切です。つまり周囲の大人が「将来ムシ歯をつくらないようにするルール」を敷いてあげなければならぬと。

たゆまぬ努力で地域貢献を目指す

秋野 ひと口にムシ歯と言っても、その状態はお子さん一人一人によってタイプが違います。

池上 はい。当院ではタイプ別にオーダーメイドのムシ歯治療プログラムを提案することが出来ます。それだけに「ムシ歯予防はゼロ歳から」との認識を親御さんにも持つて頂けるよう啓蒙に力を入れていますね。

秋野 三つのキャラクターにしてもそうですが、小児歯科専門だからそこできると色々なサービスで、本当にお子さんの歯の健康を思っておられるのを感じました。

池上 そう言ってもらえるとありがたいです(笑)。当院では乳幼児期からムシ歯予防を徹底して行なうことを大前提にしていますが、だからと言ってお子さんにできてしまったムシ歯を親御さんの責任にはしません。これまでの経験から私にもいかに育児が

大変かを理解しているつもりですから、間違ってもムシ歯のことで責めて育児不安に陥れることはしません。ムシ歯ができた時はどうすれば改善できるかに全力を注ぎますし、スタッフも一緒になってあらゆる悩みを解消しながら治療を進めてまいりますので、ご相談だけでも構いませんから気軽に足を運んで頂きたいと思っています。

秋野 ところで、お子さんの診察で最も難しい点といますと。

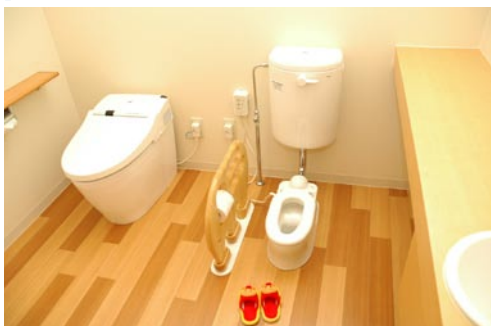
池上 例えばハプニングが起きて診察時間に間に合わない時、できるだけ後に影響が及ばないよう時間配分を考えるのに苦心します。先程もお話ししましたが、当院では完全予約制を導入しています。しかしながら小さいお子さんである以上、予期せぬ出来事が起こって時間通りにお越し頂けない場合もあります。そうすると器具や薬剤を準備して万全の態勢でお待ちしている私どもは時間を無駄にせざるを得なくなりますので、そんな時は「できる限り早めにご連絡下さい」と伝えていきます。どうしても時間を守るのが困難な場合はどうすれば解決できるか、お子さんも含め対応についてご相談させて頂きます。

秋野 本日は院長のお話を伺いながら、私自身も歯の健康について改めて深く考えさせられました。最後に展望や夢についてひと言お聞かせ下さい。

池上 お子さんに付き添って来られた妊娠中のお母さんから、「一緒に自分の歯も治療してほしい」と依頼されるケースがよく

◇INFORMATION

「お子さんの歯をしっかりと守ります！」



あります。いけがみ小児歯科はあくまでも小児専門ですが、妊娠中から歯の健康を考えることはとても大切と認識していますので、これから機会があれば妊婦さんのサークルや集まりに参加し、妊娠中の歯科についてアドバイスさせて頂ければと思っています。また、エコージョーの観点から自分のハシカチ、コップ、歯ブラシをご持参頂くことも提唱したいと考えており、ご持参下さった方には何か特典を付けることも検討中です。とにかく今後もスタッフの力を借りて様々なアイデアを形にしなから、三歳のお子さんでも一人で診察室に入って治療が受けられるよう安心かつ充分なサポートを実践してまいりたいですね。それができるようになった時からお子さん自身の歯の健康に対する自覚が芽生えてくるものと考えますので、将来この地域の歯に対する意識が向上するよう様々な工夫を凝らしながら取り組んでまいります。

秋野 お子さんに対する視線の優しさ、近江商人の考えを取り入れた発想の面白さなど、すべて院長の熱意から生まれたものだと思います。そのお気持ちを継続し、地域の子どもの歯の健康のために末永くご活躍頂きたいと思っています。頑張ってください。